

山内家資料等を適切に管理し、調査研究に基づいた高知の歴史や文化の魅力を広く伝え、かつ立地を活かし地域振興、観光振興にも寄与する

要求水準—収集・保存

山内家資料及び別途定める収集方針に基づき収集した高知県の歴史・文化に関する資料を適切に保存する

評価項目

- (1) 山内家資料を核として、近世から近代に至る高知の歴史を特色づける資料を適宜収集する
- (2) 資料を毀損、滅失することなく、開館までに高知城歴史博物館に移転、配架し、公開承認施設の取得に向けた環境整備、劣化防止等の処置を適切に行う
- (3) 資料保存修復に関する年次計画を策定し、それに基づき着実に資料の修復を進める
- (4) 資料相談窓口を設けるなど地域における資料保存活動への積極的な協力を行い、年1回以上の出張相談を実施する

状況説明

- (1) 個人所蔵者より寄贈7件 93点、寄託2件5点の申し出を受け、資料リスト及び概要書を作成した。
  - <主な受入資料>
    - 山内氏寄贈資料 国重要文化財「太刀 銘備前国長船兼光」
    - 松崎氏寄贈資料 70点(浮世絵城郭関係史料)、酒井氏寄贈資料 1点(13代山内豊熙筆自画像)
    - 掛川神社資料(寄託) 4点(重要文化財 太刀「国時」・重要文化財 太刀「康光」他)
- (2) 保存環境維持と展示公開の両立につとめ、公開承認施設の取得要件である他機関所蔵の国宝・重要文化財の借用展示を実現。
  - ア 収蔵環境の調査と環境整備
    - ・収蔵庫内の温湿度・空気環境調査・害虫のモニタリング調査を定期的に行う。
    - ・収蔵庫および1階一時保管庫等を対象に殺虫・防カビを目的とする燻煙を実施したほか、新規受入資料に対しては低酸素処理による殺虫処理を行った。
  - イ 公開承認施設の取得に向けた環境整備
    - ・公開承認施設の取得に必要な環境水準を維持するため、各種調査データの分析に基づいて適宜改善を行った。
    - ・展示ケース内の温湿度・空気環境測定や照度調査を行い、資料に合わせた公開日数を設定することで、資料の展示と保存を両立した。
- (3) 山内家資料のうち、特に展示活用が期待される美術工芸品4件の修理を行った。
  - ・長期計画策定のため、古文書類 108 件の修理設計の作成を行った。
- (4) その他
  - ア 保存協力
    - 電話・来館による個人所蔵資料に関する保存相談へ対応したほか、維新博地域会場からの協力要請に保存担当学芸員等が対応した。
    - ・津野町教育委員会襖絵の保存処置等への助言(出張相談)
    - ・坂本龍馬記念館展示ケース等への空気環境への助言(出張相談) など合計 13 件
  - イ 修繕室の運用
    - ・館職員による収蔵庫および展示室の環境調査や受入資料のクリーニングを行った。
    - ・寄贈資料の展示促進を図るため、資料が展示に耐えられるよう職員による簡易修理を行った。(合計6件)
    - ・県内他館所蔵資料の修理促進を図るため、希望機関に修繕室を提供し、外部技術者による修理を行った。
  - ウ 保存説明会
    - ・視察受入のほか、県民向けの見学会などを企画し、博物館機能に関する情報発信を行った。
    - ・館内及び大川村で県民を対象とした「資料整理保存講習会」を開催した。(館内 25 名、大川村 14 名)
    - ・山内家資料修理説明会「甲冑を解き明かすー修理とその成果ー」を開催、県民を対象に修理の取り組みや成果等について情報発信した。(参加者 51 名)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国重要文化財の寄贈を受けるなど昨年度を大幅に上回る資料の寄贈・寄託の実績があり、展示活用が期待される美術工芸品の修理も実施している。</li> <li>・保存環境維持と展示公開の両立に努めており、他機関所蔵の国宝・重要文化財の借用展示の許可を得て、公開に向けた取り組みを行うなど、公開承認施設となるために必要な実績が評価できる。</li> <li>・資料保存修復に関し、蓄積した経験を同様の課題を抱える他機関へ還元できたと認められる。</li> </ul>

評価項目

- (1) 資料調査成果の公開計画を策定し、それに基づき資料目録(データベース公開を含む)、展示等、多様な手段により広く全国に発信する
- (2) 日本の近世史研究の拠点として認識されることを目指し、研究者、専門家との協働を含め、資料の調査、研究を推進する。調査研究の成果については、毎年研究紀要等の刊行物により公表し、歴史や美術に関する学会、研究会等を誘致するための具体的な活動を行う
- (3) 調査研究の成果は、上のほか展示、講演、講座等、多様な手段により公開し、これに係る図録、小冊子等の刊行物については年2冊以上作成する
- (4) 山内家資料の基礎データの整理等により、国の重要文化財指定に向けた協力を行う

状況説明

- (1) 資料調査成果の情報発信を実施
  - ア 閲覧室の運用
    - ・研究者等による古文書閲覧のほか、県民や一般市民からの先祖調べや歴史的な質問に対し、回答・調査協力を行った。
    - ・閲覧室利用者数 472 件(うち古文書原本閲覧申請 21 件、写真帳・閉架図書の見学申請 109 件)
    - ・リファレンス対応 190 件(電話・手紙等による対応含)
  - イ データベースの公開・充実
    - ・書庫の整理作業を進め、参考図書の登録・配架基準を定めてデータベースへ入力した。
    - ・過去に調査した調査カードの入力作業を進め、情報の充実を図った。
    - ・年譜系の索引データベース公開に向け、出納用情報の追加を行った。
  - ウ 情報発信
    - ・国立能楽堂主催の特別展「土佐山内家の能」へ農学関係史料(91 件)を貸し出したほか、掛川市二の丸美術館で開催された企画展「掛川城と高知城 山内一豊と歴代城主ゆかりの遺品」など 10 件の展覧会に対し、資料貸出を行った。
  - エ 古文書等の副本作成
    - ・寄託資料(掛川神社所蔵)である太刀「国時」・「康光」を対象に、高解像度デジタル撮影を行い、展示及び公開に努めた。
- (2) 歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を実施
  - ア 調査研究活動
    - ・館外所在山内家・土佐藩関係史料の調査(県内4箇所)
  - イ 館外との協働
    - ・文化財保存修復学会高知大会公開シンポジウム(共催)及び本大会(協力)への運営協力
    - ・高知大学との合同による土佐神社の御蔵整理作業
  - ウ 学会・研究会活動
    - ・文化財保存修復学会高知大会イベント公開シンポジウムでの報告発表
    - ・文化財保存修復学会高知大会での口頭発表1件、ポスター発表3件
    - ・大名道具収蔵館研究会「大名と能楽」(幹事館:彦根城博物館)への参加
    - ・特別企画展「明治元年の日本と土佐～戊辰戦争 それぞれの信義～」の関連行事として、徳川美術館・福島県立博物館・鹿児島県明治維新 150 周年推進室・当館の学芸員等による記念シンポジウムを開催
    - ・徳島城博物館開催の「華の肖像－四国の大名華族－」での報告発表
    - ・四国ミュージアム研究会「西日本豪雨災害における資料救済・保全」への参加
  - エ 刊行物による公表
    - ・企画展「山内家のおひなさま」の関連企画として開催した「山内家資料修理説明会」で報告発表された基調講演「女乗物の歴史的変遷をたどる」の内容などを収録した当館の第1号となる研究紀要を刊行した。
- (3) 学芸員がそれぞれの調査研究成果に基づき、多様な展示・講座・講演等を実施
  - ・特集展パンフレット『新時代と土佐』の刊行
  - ・特集展図録『ぼくらの明治維新～庶民が見た新時代～』の刊行

- ・企画展パンフレット『土佐藩歴代藩主ミニ図鑑』の刊行
- ・企画展解説ホームページ『違いが分かるあなたの「名刀」大選挙』の開設及び「刀カード」の刊行。
- ・国立能楽堂特別展図録『土佐山内家の能楽』への寄稿

(4)平成 30(2018)年 12 月 11 日から 14 日の日程で文化庁歴史資料部門調査官3名と当館学芸員による資料調査(美術工芸品・書蹟)を実施し、最終日には今後の調査計画について協議を行った。また、過去に整理した山内文庫の調査データを当館データベースへ入力し、指定後の資料管理体制の基礎を整備した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者等による古文書閲覧のほか、県民からの問い合わせにも数多く対応しており、広く収蔵資料を活用している。</li> <li>・館外の学芸員や専門家との交流・情報交換、共同開催の研究会を進めるとともに、県外の博物館等と協働し、高知県でシンポジウムを開催することができている。</li> <li>・歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を実施し、それぞれの調査研究成果に基づき、多様な展示・講座・講演等を実施するとともに年間4件の刊行物を作成した。</li> </ul>

要求水準－展示・公開

収蔵資料等による展示活動及び関連事業により、歴史や文化に対する関心を深める

評価項目

- (1) 山内家資料を核として常設展、企画展を開催し、年間 10 万人以上の観覧者を目指す
- (2) 歴史や文化に対する関心を高めるとともに、公開承認施設の承認に必要な実績を重ねるため、他機関が所蔵する国宝・重要文化財等の公開に取り組む
- (3) ワークシートやデジタル機器類を用いた展示解説、関連行事等を企画展ごとに2件を目安に実施し、来館者の理解が深まる取組を充実させる

状況説明

(1)文化財保護法に定められた展示期間を遵守しながら常設・企画展を順次開催した。(年間観覧者 106,247 人)

ア 企画展

- 「明治元年の日本と土佐 ～戊辰戦争 それぞれの信義～」
- 「土佐藩歴代藩主展 ～戦国から明治 山内家の 300 年～」
- 「幕末維新 時代の群像展 ～土佐の社会と人物～」
- 「福を呼ぶ 城博のお正月 ～一国兼光と今村兼光～」
- 「山内家のおひなさま～匠の極小世界～」

イ 特集展

- 総合展示室Ⅱは「志国高知 幕末維新博」メイン展示会場として整備、特集展を2ヵ月ごとに展開。
- 「『志士』の国土佐 ～年譜書から見る土佐藩のしくみ～」
- 「ぼくらの明治維新 ～庶民が見た新時代～」
- 「近代日本の出発 ～高知藩の時代～」
- 「歴史になった幕末維新」

(2)館蔵の国宝「古今和歌集巻第廿(高野切本)」・重要文化財「長宗我部地検帳」「太刀 備前国長船兼光(一国兼光・今村兼光)」・「太刀 国時・太刀 康光(掛川神社寄託)」を展示公開したほか、高知県指定文化財「森田久右衛門江戸日記」高知市指定文化財「万葉集古義」を展示し、指定文化財が常時展示室で見られる体制を実現した。

また、特別企画展「明治元年の日本と土佐～戊辰戦争 それぞれの信義～」において、国宝2件(米沢市上杉博物館所蔵の「松平容保追討沙汰書写」「松平容保追討達書」、重要文化財7件(元離宮二条城事務所所蔵の「国書院障壁画 四の間 秋草扇面散図」、毛利博物館所蔵の「慶喜追討二付沙汰書」、武雄市歴史資料館所蔵の「モルチール砲」など他4件)を借用して展示した。その他にも全国から貴重な戊辰戦争ゆかりの資料の数々を借用しており、中でも戊辰戦争における東北諸藩の象徴でもある「奥羽越列藩同盟旗」を展示した。

(3)展示替えに合わせて音声ガイドコンテンツの入替・充実を図った。また常設展示室内で使用するワークシートを制作したほか、企画展・特集展に対応した配布資料や行事を開催した。

ア ワークシート

- ・全室共通「はくぶつかんシート」の配布
- ・全室共通「みる・かく・よむかたち」の配布および解説更新
- ・通史展示室「高知城のひみつをてっぴいぶんせき」の配布

イ 印刷配布物

- ・展示資料・音声ガイドリスト(通史・特集／美術・企画展示室用各1枚)
- ・特集展解説シートの印刷配布(城博新聞・試験問題等)
- ・新年限定初夢摸カード・七福神カードの配布
- ・ひな道具立版古の配布および販売

<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ展示室解説シート「刀ってすごい」の制作・配布</li> </ul> <p>ウ 企画展関連行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展担当学芸員によるスライドレクチャー・展示解説(28回)</li> <li>・展示室投票イベント(1回)</li> <li>・記念講座・シンポジウム・講演会(6回)</li> <li>・ワークショップ・音楽会(2回)</li> <li>・「幕末維新六講座」(2回)</li> <li>・バスツアー・散策会(1回)</li> </ul> <p>エ 展示解説</p> <p>解説員による案内対応のほか、団体等の依頼に対応しての展示解説にも対応した。(78件 1,784人)</p> <p>オ デジタル機器類を用いた展示解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通史・美術・特集・企画展各展に対応した音声ガイド(日・英・中(簡・繁)・韓・タイ・土佐弁)の運用</li> <li>・企画展・特集展ごとに日・英版音声ガイドを追加更新</li> <li>・夏休み子ども対応「やまびよんまつり」音声ガイドの制作</li> <li>・国宝高野切・重要文化財一國兼光・同今村兼光の鑑賞ガイドビデオの制作</li> <li>・3階ロビーでの高知城解説・クイズコンテンツの制作</li> </ul>
--

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山内家資料を核とする常設展に加え、維新博関連の特集展・企画展では館外からの借用や新たに寄託された資料も展示するなど、魅力的な展示づくりを実施した。</li> <li>・昨年度から継続して、指定品公開に適した展示室環境を整備し、公開承認施設の要件である館外所蔵の指定文化財借用実績(国宝2件、重要文化財7件)をあげたことは評価できる。</li> <li>・子どもから大人、外国人を含めた幅広い来館者に対応できるよう各種コンテンツを整備・導入し、関連行事を展開するなど、来館者の理解を深める取り組みを行った。</li> </ul>

評価項目

- (1) 幅広い年代が参加できる歴史や文化に親しむ講座や行事を企画し、講座等の種類として年間で6件以上実施する
- (2) 子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させるため、教材研究への協力、出前授業、校外学習等を通じて初等教育、中等教育との連携を強化し、年間で10回以上の児童生徒と関わる事業を実現する
- (3) 博物館実習生やインターンシップの受入を行うなど、高等教育機関との連携を深めることにより、次世代の担い手の育成を支援する

状況説明

(1) 教育普及活動として企画・行事・講演を実施した。

ア 講座・催し物等の開催

・「城博講座」と題して、博物館の所蔵資料や学芸員の専門性、調査研究の成果を活かした各種講座を開催。5月～2月にかけて毎週土曜日に、一般向けに各講座を開催した。

イ 歴史講座(4回/231名)、古文書講座(5回/275名)、美術工芸講座(4回/136名)

保存修復講座(2回/32名)、高野切講座(入門・初級 各10回/643名)

日本の文化講座(4回/226名)、整理保存講習会(2回/39名) = 延べ41回、1,582名

ウ 日本の歴史や伝統文化を体験する講座を実施【小中学生対象】

みる・きく・さわる 刀(5月/10名)、わくわくたんけん高知城!(8月/30名)

夏休み工作教室①イス作り(8月/11名)、夏休み工作教室②扇子とハンコ作り(8月/17名)

みる・きく・さわる 岩絵具で描く(11月/11名) = 延べ5回、79名(5ページ、35行目)

エ 日本の歴史や文化を伝える体験型講座を実施【外国人対象】

Japanese Cultural Experience～弓道～(3月/12名)

オ 食や伝統音楽などを通して、日本の歴史や伝統文化に親しんでもらうための催事を開催

梅漬けの会(6月/25名)、お月見の会(10月/28名)、お正月の会(1月/18名) = 延べ3回、71名

カ 観光シーズンに、家族・親子を対象としたワークショップ等を開催

歴史文化体験コーナーの特設(5月GW/約500名)(8月盆休暇/552名)(1月正月/335名)、高野切スタンプ(1月正月/179名) = 延べ4回、1,566名(5ページ、50行目)

キ 体験道具類の整備・補充

・幅広い年代・国籍の方に、気軽に歴史や文化に触れてもらうことを目的に体験用道具を整備。

・博物館3階展望ロビーの体験コーナーでは、時期によって道具の入替を行い、来館者に楽しんでもらうための工夫を実施。(陣羽織、変わり兜、高野切水書セット、貝合わせ等を順次入替)

(2) 教材研究への協力、出前授業、校外学習を通じ、児童生徒と関わる事業を実施

ア 教育委員会との連携・協力

・県教育委員会の各担当課、教育センター等と連携・協力のあり方について意見交換を行った。

イ 教員の研修会・学習会への協力

・県教育委員会、教育センターの研修会「教科研究センター講座(専門講座)」で、博物館の利活用並びに当館の所蔵資料を活かした郷土の歴史学習について講義を行った。(教育センターと共催)

教科研究センター講座 専門講座①(9月/9名)

教科研究センター講座 専門講座②(11月/4名)

・各市町村の教員が自主的に行う教育研究会の研修会での講義や、見学の受け入れを行った。

高知県公立小・中・義務教育学校・特別支援学校 女性管理職の会 夏季研修会(8月/19名)

高知県高等学校教育研究会 図書部会研修会(2月/6名)

ウ 学校関係者向け博物館利用案内広報の充実

- ・学校の教員向けの博物館利用案内パンフレット『学校の先生のための城博利用ガイド』を県内の全小中高校に発送した。
- ・博物館のホームページ内に「学校関係のみなさまへ」というページを特設した。
- エ スクール・ミュージアムバス事業(学校招待バス事業)
  - ・学校が来館する際のバスの費用を博物館側で負担する「スクール・ミュージアムバス事業」を、仁淀川町の小学校を対象に実施した。 小学校(3校/87名)
- オ 学校見学の受入・出前授業
  - ・学校見学の受け入れ
    - 小学校(51校/2,501名)、中学校(17校/1,004名)
    - 高等学校(26名/982名)、特別支援学校(5校/107名) =延べ99校、4,594名
  - ・博物館への来館が難しい学校に対して、出前授業を実施
    - 小学校(2校/68名)、中学校(2校/140名)、高等学校(1校/17名)
    - 高等学校(県立高知北高等学校「特別講座」年間25回/各回31名、延べ775名)
    - 特別支援学校(1校/5名) =延べ7校、1,005人
- カ 教材資料の貸出・校外学習への協力、授業作りへの協力等
  - ・教材資料の貸出(小学校6校、中学校2校、高等学校1校、特別支援学校3校)
  - ・学校の校外学習への協力(高知城案内8校、城下町案内3校)
  - ・授業作りへの協力(授業に活用できる関連資料の提供や外部の講師を紹介)
- キ 児童クラブへの学習協力
  - 見学の受入(4ヶ所/25名)、出前講座(5ヶ所/330名) =延べ355名
- (3) 高等教育機関との連携
  - ア 学芸員資格課程との連携
    - ・高知大学の博物館学芸員資格課程との連携事業継続し、整理保存・地域連携の2部門で実施。
    - ・整理保存部門: 水写真の保存処置作業を行った。(5回/12名)
    - ・地域連携部門: 高知市一宮の土佐神社が所蔵する資料の整理・調査を実施した。(5回/12名)
  - イ 博物館実習生の受入
    - 博物館実習生の受入を行い、博物館における事業と運営の概要説明、保存・調査・展示・教育普及・地域連携の概説と実習、他館見学等を行った。(6名/8日間)
  - ウ 職場体験・インターンシップの受入
    - 中学生(6校/11名)、高等学校(1校/1名)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い博物館の利用者層に対応するための講座・催事を多種多様に開催したことは評価できる。</li> <li>・教員研修会への協力や校外学習への協力、出前授業など、様々な機会に学校が博物館を利活用できるように努め、また教員への周知も積極的に行うなど、学校の利用に供したことが認められる。</li> <li>・博物館利用案内パンフレットを作成し、県内の全小中高校に配布し、周知を図ったことで博物館実習やインターンシップの受入人数が増加し、博物館の業務について実習を行う機会を通して、次世代の育成を支援することができた。</li> </ul>



要求水準－地域振興、観光振興

地域振興、観光振興を視野に入れた事業展開を行う

評価項目

- (1) 歴史文化情報の提供や職員の派遣による地域の文化活動への協力により、県内各地の歴史や文化による交流を支援する
- (2) 地域の歴史・文化をテーマとした展示及び関連行事の準備を進め、5年間のうちに開催するほか、観光客の受入体制の充実を図り、県内外の文化施設等とも連携して県内各地への人の流れを生むような情報提供に努める
- (3) 周辺文化施設及び高知市中心部の諸団体と協力し、連携企画の実施、新たな行事の創出の提案等、博物館周辺エリアにおいて歴史や文化を切り口とした観光資源の充実に努め、回遊人口の拡大を目指す

状況説明

(1) 歴史文化情報の提供や職員派遣による地域文化活動への協力

ア 歴史文化情報の提供

- ・高知県内 1000 ヲ所以上に及ぶ江戸時代の村単位で、地域の歴史文化情報を閲覧できる「小村データ」を閲覧室において通年で公開した。
- ・高知県情報コーナーと城下町情報コーナーにおいて、県内の文化施設情報をはじめ、各地域の歴史・文化・観光に関する情報を発信した。

イ 地域の歴史文化活動への協力

- ・学習会等への講師派遣を実施し、地域の歴史や当館の活動に関する講演を行った。
- ・高知カツオ県民会議と連携し、土佐の海や鰹の歴史文化に関する講座と諸行事を実施した。

ウ 地域の歴史文化の紹介・普及

- ・地域の歴史を現地で紹介する「地域散策会」を開催した。
- ・高知カツオ県民会議と連携し、土佐清水市内の史跡等を巡る見学会(41名)を行った。
- ・高知県木材普及推進協会と連携し、5月と10月に土佐材を使ったワークショップを開催。(449名)

エ 地域連携事業の周知広報

- ・地域関係の事業内容を紹介するパンフレット『地域の歴史と文化の？に高知城博が答えます！』を増刷し、館内外で配布した。
- ・HP「地域連携」のページ「地域とともに」において、地域関係事業の情報を発信した。

(2) 地域の歴史・文化をテーマとした事業

ア 地域資料への調査協力

- ・香南市の個人所蔵資料の調査に協力
- ・梶原町の阿弥陀堂経巻の調査に協力 等

イ 地域歴史文化の調査研究

- ・県内各市町村を会場に、学芸員が地域の歴史を紹介する「出張講座」を開催した。  
大川村(14名)、仁淀川町池川地区(60名)
- ・地域の歴史文化の調査研究活動として、『地域記録集 土佐の村々』を継続して発行した。  
30年度は、第2号及び第3号の増刷を行い、館内外で配付。また第4号の発行準備調査を芸西村久重地区等で実施した。

ウ 地域の歴史文化展の開催準備

- ・特別展示室にて、県内各地の歴史文化に関する企画展の開催を予定。仁淀川流域を対象とした基礎調査を開始しており、流域に関する歴史・文化・民俗誌的な文献等の調査を行った。

エ 連携体制の維持・整備

- ・県内市町村の地域振興・観光振興関係部署等との意見交換を積極的に実施した。

- ・県内最大の文化施設等の連携組織「こうちミュージアムネットワーク」の事務局を務めた。
- ・江戸時代を主要なテーマとして活動する歴史系博物館による連携組織「土佐藩・土居関係資料所蔵博物館連携協定」の事務局を務めた。
- ・明治維新 150 年の動きに関する連携組織「明治維新 150 年高知県ミュージアム連絡協議会」の事務局を務めた。同協議会では、『幕末維新の土佐 探訪図会』、『幕末維新の土佐 人物紹介』の増刷・配布および県内学芸員による巡回講座を実施。

(3) 周辺文化施設及び高知市中心部との連携

ア 高知市中心部との連携・協力

- ・高知市中心部の関係者との協議や意見交換を積極的に実施。これら意見交換の成果も踏まえ、高知市中心部に関する情報発信や商店街と連携協力した活動等を実施した。
- ・城下町情報コーナーで、城下町の歴史や見所、高知城や商店街で行われる催事等を、映像や印刷物により県民や観光客に対して発信した。
- ・子ども向け印刷物「高知城探検パンフレット」、「城下町探検パンフレット」の配布を行った。
- ・商店街及び高知商工会議所が主催の「得する街のゼミナール(まちゼミ)」に参加し、5月は土佐和紙をテーマとした講座を、11月は陶片マグネットづくりの体験講座を行った。(38名<4回>)
- ・当館実習室にて日曜市で出会える食材を使った「日曜市料理教室」を開催。(175名<9回>)
- ・県内の民俗行事を高知市中心部で紹介する催事「お城下で見る土佐国」を開催。当館の他、高知城や商店街、中央公園において、四万十市西土佐の半家天満宮に伝わる牛鬼練りや五ツ鹿踊りの実演を行った。(約900名)
- ・高知市中心商店街主催の歳末抽選会に、高知みらい科学館との共通年間パスポートを景品として参加。
- ・高知市中心商店街と連携し「高知ハッカソン 2019」において城下町の魅力発信をテーマとした散策会を企画、当館は講師として協力した。(15名)
- ・NTT西日本高知支店が設置している「土佐ゆかりの偉人」看板の改修にあたり、監修と原稿執筆で協力した。
- ・高知市中心部の文化施設の連携組織「高知お城下文化施設の会(通称:お城下ネット)」の事務局を務めた。また同会の連携催事として「第2回お城下文化の日」を開催し、オーテピア多目的広場にて合同ワークショップを、各施設にて資料の公開や町歩き、トークイベント等の特別企画を行った。(約954名)
- ・文化施設マップや催事カレンダーをまとめた「2019年度お城下文化手帳」を編集・発行した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域へ職員を派遣し、講座や、地域での活動の協力、地域の歴史文化の紹介や普及活動など歴史や文化による交流促進につながる活動を展開したと認められる。</li> <li>・県内市町村の地域振興・観光振興関係部署等との連携、文化施設等との連携など、連携体制のとりまとめ役を担い、連携組織による講座やイベント活動を展開したと認められる。</li> <li>・高知市中心部の諸団体との継続的な交流により、情報発信や催事等の従前からの活動に加え、「高知ハッカソン 2019」など新たな取り組みも実施した。また、NTT西日本高知支店が設置している「土佐ゆかりの偉人」看板の改修に協力し、博物館エリアの観光資源の充実に努めた。</li> </ul>

評価項目

広報計画に基づき、館のホームページや広報誌、チラシその他メディア等も駆使した効果的な情報発信を行い、ホームページアクセス数やアンケート調査等を参考に、常に広報効果の検証を行う

状況説明

- ア 自主媒体等による情報発信
- ・パンフレットや年間スケジュールリーフレット等で博物館の見どころや企画展等の開催情報を随時周知したほか、ホームページを活用して、企画展や講座・催し物等の開催情報を随時発信した。
  - ・館の情報を包括的に発信する定期情報誌を発行した。
  - ・SNS(Facebook、twitter)を新たに導入し、展示のみどころや博物館の活動報告など情報発信した。
  - ・建物外構に展示や講座・催し物の掲示物を掲出し、通行者等への周知した。
  - ・来館者数統計や来館者アンケート調査をもとに観覧者層の内訳や動向を鑑みながら、効果的な広報の取り組みの見直しを随時実施した。またホームページのアクセス解析による効果測定をもとに、WEBを活用した効果的な情報発信も随時検討、実施した。
- イ マスメディア等を活用した広報
- ・新聞・雑誌広告、交通広告などの各種広告を組み合わせることで効果的なタイミングで情報発信を実施。
  - ・企画展や催しに合わせたプレスリリースや、主要な企画展にあわせて記者説明会や開展式を行ったほか、観覧者 30 万人達成にあわせて記念企画を行い、メディアへの露出拡大を図った。
- ウ 出張広報活動
- ・認知向上を図るため、高知市中心商店街土曜夜市、こうちまんがフェスティバル(11 月)に参加した。
- エ 広報・誘客イベントの開催
- ・帰省客や観光客の増加にあわせて誘客促進を図るために広報・誘客イベントを開催。
  - ゴールデンウィーク:特設体験コーナーを設置。(約 500 名)
  - 「高知城お城まつり」の夜間開館延長:手裏剣体験(645 名)、ロビーコンサート(434 名)
  - お盆時期:特設体験コーナーを設置。(552 名)
  - 「高知城光の祭」の夜間開館延長:キャンドルづくり(68 名)、提灯づくり(89 名)、特別講座(84 名)
  - 正月特別イベント:、特設体験コーナー(335 名)、吟詠実演会(46 名)、土佐凧づくり(10 名)など
  - 開館2周年特別イベント:学芸員リレートーク(30 名)、記念講演会(71 名)、伝統産業体験会(50 名)
- オ 来館者誘致
- ・県観光コンベンション協会主催の観光説明会(大阪、東京、広島、岡山、高知)に参加し、旅行会社関係者に向けて当館の情報提供および旅行商品造成の協力を行った。
  - ・県内老人クラブの会員へのPRを行った。
  - ・高知城からの誘客増加を図るために、高知城敷地内の情報看板を活用して誘客に取り組んだ。

評価	理由
B	・パンフレットやリーフレットをはじめ、HPやSNSなども活用した様々な広報活動を行っているが、年間観覧者数は、H29 年度と比較し、約 40%減少しているため、今後の誘客に向けて、より効果的な広報活動の取り組みと工夫が必要である。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) アンケート等により入館者からの意見を積極的に収集し、清掃や警備、設備管理その他館内外の利用環境に関する効果的な改善策を実行し、利用環境の向上に努める

状況説明

・館内の数カ所にアンケートボックスを設置し、収集。収集したアンケートは定期的に集計し、職員全体に内容を周知している。また、対応が必要と判断した内容については館内で協議し、利用環境の向上に努めた。

評価	理由
B	・アンケートによる来館者意見を館の運営に反映させるなどの取組が認められる。 ・入館者の意見をより取り入れやすくなるよう改善への取り組みを進めて欲しい。

評価項目

(2) 安全な利用環境を保ちながら、光熱水費を含む維持管理経費については年度ごとに分析を行い、経費削減に取り組む

状況説明

・光熱水費についてはデータを蓄積し、省エネに努めている。  
・その他、各設備の保守管理については県と協議の上で入札や随意契約を行い、最適な業者との契約を進めている。

評価	理由
B	・月ごとのデータを蓄積していき、分析するなど、適正な維持管理に努めている。

評価項目

(3) 観覧者、講座等利用者確保のほか、貸出施設についても利用を促進することで収入を確保し、管理費や事業費の削減と合わせ収支のバランスを維持する

状況説明

- ・広報活動等により、展示や講座の日程・内容等を発信し、観覧者・利用者の確保に努めた。  
(30年度観覧者数 106,247人)
- ・貸出施設については、HPなどで情報を発信し、前年度を上回る利用があった。
- ・講座等利用者については、定員を超える申し込みがある催しもあり、多くの人に利用されている。

評価	理由
B	・貸出施設の件数はH29年度と比較し40%増加しており、利用を促進する取り組みが認められるが、企画や広報活動の工夫による、より効果的な誘客対策を期待する。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄贈・寄託件数は前年度を大きく上回り、歴史資料保存に貢献していると認められる。</li> <li>・各学芸員が実施した調査研究活動の成果を、展示、講座等様々な形で公開しており、充実した活動が見受けられる。</li> <li>・ワークシートやデジタル機器、企画展に関連した行事を通して観覧者の理解が深まる工夫を行っていることは評価できる。</li> <li>・博物館利用案内パンフレットを刊行し、教育機関へ周知した結果、学校見学や出前授業等の件数が増加し、博物館実習生および職場体験・インターンシップの受入人数の増加が認められるなど、充実した教育普及活動が見受けられる。</li> <li>・県内各地の歴史文化の交流を支援するため、講師派遣や広報活動等を多数実施。また地域資料の保存調査の協力や、研究支援にも職員を派遣している。</li> <li>・高知市中心部の諸団体等と連携し、「土曜夜市」「こうちまんがフェスティバル」に参加し、認知を図るほか「お城下で見る土佐国」の開催、「高知ハッカソン 2019」における講師協力など観光振興に供する取り組みを行っている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">以上のことから、要求水準を上回る成果が有り、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

## 評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。